シネマズライフ

2017年12月22日発行 第136号 http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

貴樹(たかぎ) 涼音(りおん)

【最近のこれはお見事！】『ありふれた悪事』ありふれていても《悪事》は《悪事》。

【最近のこれはまずいぞ！】『トム・キャッツ 恋のハメハメ猛レース』エル・ファニング繋がりでダコタ・ファニングを調べていたら出演作品の中にこのタイトルが…。17年前の映画でカメオ出演らしいが、この題名はあんまりだと思った。

映画の風景 日本の風景

⋇ 三菱重工業神戸造船所 ⋇

← 摂州神戸海岸繁栄図

『クリムゾン・タイド』という映画があった。こんな映画だ。

少し前のロシア。シベリアの核ミサイル基地を反乱軍が占拠、アメリカと日本に核攻撃の危機が迫ってきた。アメリカはオハイオ級原子力潜水艦「アラバマ」に出撃命令が下された。艦長は歴戦の猛者・ラムジー大佐とハーバード大学卒のエリートにしてアフリカ系のハンター少佐が副官として着任。しかし、二人の考えはは水と油で、また、出港してからもラムジー大佐の傲慢な態度に船内に不安が渦巻くようになっていた。

しかし、政治的危機はそんな事は関係なく「アラバマ」は戦闘地域に入り、敵潜水艦に遭遇。ペンタゴンからも【攻撃せよ】との電文が入り臨戦態勢に入る。ところが「アラバマ」が攻撃準備に入ったところ再びペンタゴンから電文が入るが、それと同時に敵潜水艦から攻撃され電文が途中で止まってしまう。

最後まで読めない電文だが、ラムジー大佐は攻撃続行を命令する。ところが副官のハンター少佐は「核攻撃は大変な事、次の電文が来るまで待つべき」と主張。二人は激しく対立する…。

映画では過去の話だが、今でもあるえる時代…。

事の発端は通信施設の欠陥が原因だと思うが、実際にあった事件を元に作られた映画というところが怖い。現実にはどういう結末になったか知らないですが…。

三菱重工業神戸造船所は、今でも潜水艦を作っているそうだ。もちろん、通信施設もしっかりしている潜水艦のはずなのだが…。

『クリムゾン・タイド』1995年 アメリカ 監督：トニー・スコット 脚本 原案：マイケル・シファー 原案：リチャード・P・ヘンリック
出演：デンゼル・ワシントン ジーン・ハックマン マット・クレイヴン ジョージ・ズンザ ヴィゴ・モーテンセン

今や原爆の恐怖をパロッたキューブリック監督の『博士の異常な愛情…』も冗談じゃなくなっている今年。せめて、関係している人達が冷静にいてくれる事を祈るばかりだ。

コラム

日本人が月へ 行くかも…という件

前編

《宇宙開発》…。

21世紀に入ってから、中国が独自の開発を始めてから、各国でまた盛んになった気がする。

これは将来地球での爆発的な人口増加、食料不足、地球の環境破壊などを予測して移住などを目的としての開発だそうだ。が、地球を疲弊させたと同じように環境の事を考えずに月・火星などに移住しても同じ事だと思うのだが、どの世界でもあるように、そういう事を考えない国も人も多い。

さてこの度、国際宇宙ステーション(ISS)の運用が終了すれば、次にアメリカで計画されている月基地などの運用に日本(JAXA)が参加する予定である事がわかった。月面にも日本人が立つ事があるかもしれないのだ。

↑組み立てミッションを終えて離脱したスペースシャトルからみたISS(2011年5月30日)。

去年、中国が開発した【天宮1号】が、制御不能に陥り地球に落下する事が発表された。こまった事にいつどこに落下するのかわからないそうだ。中国は落下するまですべて燃え落ちると言っているが、ド素人の庶民からすればこんな怖い事はない。

しかし、専門家達はそれほど心配はしていないそうだ。

つまり、

《地球は大きい》

そして

《海は広い》

人間が被害を被るのは限りなく少ないというのだ。

確かにそうだ、

《地球は大きい》

《海は広い》。

では、なぜ人類は地球以外の安住の星を見つけようとするのだろうか？

以下次号

↑去年11月14日のスーパームーンは、68年前以来の近さ。

Wikipediaを参考にさせていただきました。m(_ _)m

☆【最近のこれはお見事！】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ！】は「これは、まずいぞ！」と思う題名を紹介しています。

on air !

ＣＳ・ＢＳ放送のオススメ映画を紹介します！

CS・BSのオンエア時間は変更になる場合もあります。m(_ _)m

『インターステラー』

スターチャンネル

2014年　アメリカ
製作：スティーヴン・スピルバーグ ブライアン・パーク
監督 脚本 製作：クリストファー・ノーラン
製作：エマ・トーマス リンダ・オブスト
出演：マシュー・マコノヒー アン・ハサウェイ ケイシー・アフレック
マット・デイモン エレン・バースティン マイケル・ケイン

2018年1月20日（日）13:10　【チャンネル2】

近未来のアメリカ。地球規模の異常気象の為、人類は危機にさらされていた。

トウモロコシ農場を営むクーパーは元・宇宙飛行士。義父と１５歳の息子・トム、１０歳の娘・マーフィーと暮らしていた。ある日、マーフィの部屋の本棚から本が落ちる現象が起こり、マーフィは「ポルターガイスト？」と思うが腑に落ちない点もある。それを知ったクーパーは部屋を詳しく調べてみると、なんとその現象はある座標を示していて、マーフィとクーパーはその場所に向かう。しかし、なんとそこは昔廃止されたＮＡＳＡの研究を引き継いでいた組織で地球の移住計画を勧める【ラザロ計画】の本拠地だった…。

お話はまだまだ、ものすごい展開になります。

ちょっと難しいという人もありますが、【親子愛】【恋愛】…理論より《人の心》を見る映画かと。

『マダム・フローレンス！夢見るふたり』

WOWOW

2016年　イギリス
監督：スティーブン・フリアーズ
出演：メリル・ストリープ ヒュー・グラント

12月24日（日）21:00　【シネマ】
12月27日（土）20:00（吹）　【プライム】
2018年1月11日（木）14:30　【シネマ】
2018年1月26日（金）19:00　【シネマ】

フローレンス・フォスター・ジェンキンスは父の遺産を引き継いだ事をきっかけに、夢を実現させた。それは【歌手】になる事。それに協力するのは《内縁の夫》のシンクレアだ。

しかし、唯一の問題はフローレンスが超のつく《音痴》だという事。しかし、「自分の歌声は《個性！》」と言い切っている事でシンクレアもそれを否定しない、個人サロンで歌を披露する時もチケットを“ただ(無料)”で配り、密かに批判が広がらないようにするのはシンクレアだ。ある日、とうとう【カーネギー・ホール】でのコンサートの開催が決まったが…。

さすがメリル・ストリープこのトリッキーなおばさんを見事に演じておられます。彼女を支えるのは、内縁の夫・シンクレア、演ずるはヒュー・グランドで怪しげな雰囲気がよく出ていました。

フローレンスが内心「お金」にみんな寄ってくるのね…なんて思っているフシがあり、それがこの人の悲劇の本質であるような気がします。

『眼下の敵』

1955年　アメリカ
製作 監督：ディック・パウエル
原作：Ｄ・Ａ・レイナー

出演：ロバート・ミッチャム
クルト・ユルゲンス
デヴィッド・ヘディソン

第二次大戦の最中、南大西洋。

護衛駆逐艦「ヘインズ」はUボードを追っていた。艦長は民間人出身のマレル。しかし、乗組員達とは接触しようとせず、評判が悪かった。しかし、実は着任する前に、妻を魚雷攻撃で亡くしていたのだ。

そんなある日。ついに、Uボートを発見！マレルは追跡を命じる。Uボートの艦長・シュトルベルクは生え抜きのドイツ軍人だが、彼も戦争で二人の息子を失っていた。

←バックレイ級護衛駆逐艦

「ヘインズ」艦長のマレルは、応援を頼むが到着が間に合わず、魚雷攻撃を開始。Uボートも反撃し、やがて深く潜航する。実は、Uボートはある作戦を担っており早々にその場を逃げるわけにもいかず、そのまま「ヘインズ」とUボートは膠着状態に。

そこでマレルは、Uボートを心理的に追い詰める作戦を考え、実行する…。

アメリカでは太平洋戦争を舞台に多くの映画が作られたがこの作品は名作の一つ。

駆逐艦とUボートを配置し緊迫感たっぷりの映画だ。

←Uボート

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie CinemaFilm Movie Cinema Film Movie

☆読んで頂いてありがとうございました。よろしかったらコメントでご感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願いします！m(_)m 貴樹諒音

☆次回発行は来年の1月19日。1月の発行予定は第3金曜日のみです m(_)m

シネマズライフ136号
ж 発行人：貴樹諒音 ж
発行日：2017年12月22日
cinemaz-life@movie.nifty.jp
ж 告知ブログ ж
http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/

皆さま来年もよろしくお願いします m(_ _)m

【編集後記】

☆12月になって、発行しようと思ったらプリンターがぶっ壊れてしまい修理に持っていったら「年内は無理です！」という店員さんの力強いお言葉、そこで皆さまに発行停止を告知させてもらった。しかし、なんだかんだと落ち着く暇もなく、ほとんど笠置シヅ子の『買い物ブギ』状態。そうこうしているうちになんと、「年内は無理です！」と言ってたプリンターが修理が終わったとの連絡が(^_^A。以外と早いというよりもちょっと盛りすぎだったじゃないかい？とい暇もなくこの度、発行復活しました。m(_)m

シネマズライフーcinemaz-lifeー １３６号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi
著者：貴樹 諒音
メールアドレス **cinemaz-life@movie.nifty.jp**
著者紹介ブログ 『明後日の憂鬱』
http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/2012/01/post-bcc7.html

【写真素材-フォトライブラリー】
の画像を使わせてもらっています。

《スターチャンネル》
『インターステラー』
《ＷＯＷＯＷ》
『マダム・フローレンス！夢見るふたり』

映画の感想は現在・下記のサイトにアップしています。
ぜひ、ご覧くださいませ。

Yahoo!映画
rion_takagiのMyムービー
https://movies.yahoo.co.jp/my/profile-g.uFIUaEfCFw6D1cq3gb5A--/

※＆ 他にもいろいろやってます。**(^^;)** ※＆
お世話になっているインターネットＴＶ
netchannel KYO

『オススメ犬映画』
http://www.pet-c.net/column/movie/index.php
犬の映画を紹介してます。

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

感想はこちらのコメント欄かメールを頂けたら幸です。
cinemaz-life@movie.nifty.jp

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

電子書籍プラットフォーム：パブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト